

# 札幌の成立過程

---

北海道大学大学院工学研究院

岸 邦宏

# 地域公共交通検討会議(北海道)



# 北海道新聞 ひと2016 (2016.3.8掲載)



## ひと 2016

くにひろ  
岸 邦宏さん

持続可能な地域交通を考える北大大学院准教授

道内交通のあり方について自治体代表や交通事業者、有識者らが協議する道の「地域公共交通検討会議」の座長を昨年11月から務める。3月26日に北海道新幹線が開業する一方、経営難のJR北海道が路線縮小を検討するなど交通体系が大きく変化する今、「北海道の10年後、20年後を見据えた方向性を考えた」と意気込む。

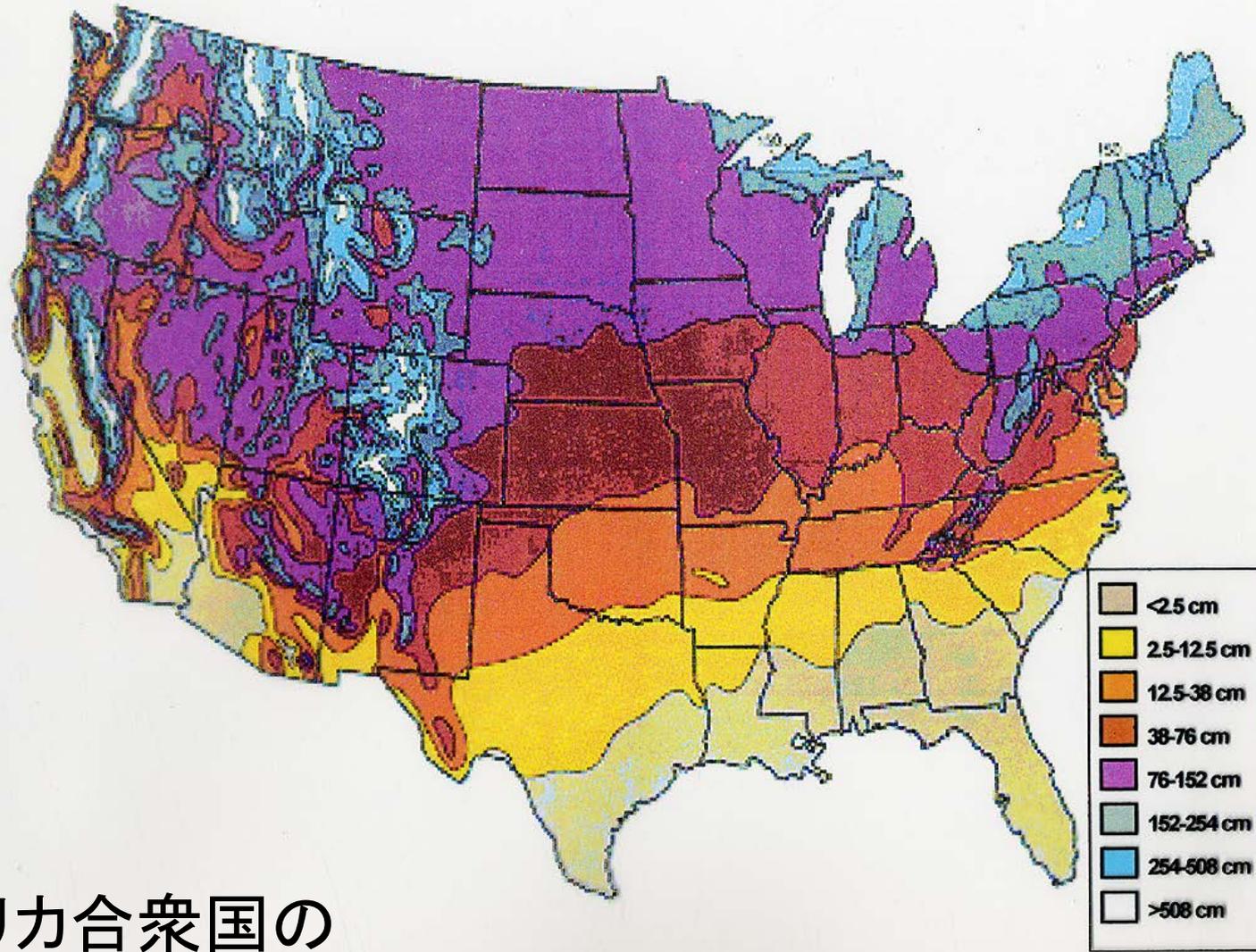
専門は交通計画。道内各地から依頼を受け、地域交通の計画づくりなどに携わってきた。信条は現場主義。学生と共に何度も地域を回り、プランを練る。

地域内を循環するコミュニティバスの試験運行は、岩見沢市や十勝管内浦幌町、同管内中札内村の取り組みに参画。単なるバス運行だけでなく、中心部に住民の交流拠点もつくり、継続的にバス利用を促す仕組みを「地元の人たちと試行錯誤しながら考えた」と振り返る。

1970年、旧浜益村(現石狩市)生まれ。北大で学生、助教時代を過ごし、現在は北広島市で暮らす。この間、95年の深名線廃止、2006年のふるさと銀河線廃止などを目の当たりにしてきた。人口減少が進む道内、JRの経営問題と交通網の維持の両立は課題だが「まずは地域ビジョンをしっかりと掲げること。そのために必要な交通は何かという順番で議論することが大切」と強調する。

どんな研究の際も「生まれ育った土地ですから」と北海道への思い入れは強い。趣味はマテ歩きと野球。45歳。(藤本卓郎)

# ロッキー山脈



アメリカ合衆国の  
年平均降雪量





1040S/SDU2











北海道新聞  
2000. 5. 28 (日)

# 島 義勇

(1822—74)



しま・よしたけ 文政5年、肥前佐賀藩で三百石取りの藩士の家の長子として出生。藩校弘道館に学び、諸国に遊学し水戸の藤田東湖と親交を深める。35歳の時、藩主鍋島直正の命で蝦夷地探査に声かき、北海道・サハリンを巡った。戊辰戦争では佐賀藩軍艦奉行、大総督府海軍先鋒(せんぼう)参謀補などを務めた。  
明治2年(1869年)、開拓使首席判官となり札幌市街地の建設に尽力したが、上司と対立して半年で免職。侍従、秋田県権令などを歴任後、明治7年、佐賀の乱に愛国党を率いて政府軍と戦い、敗れて江藤新平とともに処刑された。



成川。を南北の目で撮影

# 気宇壮大な道都構想

札幌の街の特色が、百三丁幅の大通公園を主役に碁盤の目を描く整然とした姿にあることは小学生も知っている。端正なたずまいとともに、開放的な雰囲気も期待させて、市民が考える以上に旅人の心を一気につかんでいる。

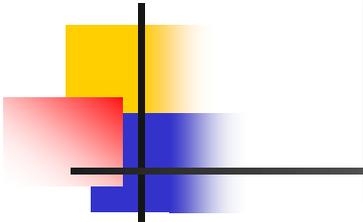
この札幌の市街地建設のさきがけとなったのが、佐賀の人・島義勇である。明治新政府の下で、開拓使首席判官となった義勇の使命は、ロシア南下の脅威に備えて北海道開拓のかなめとなる首都を早急に建設することにあった。

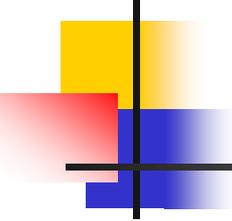
京都の町並みを模した街づくりは、五十丁幅の道路の構想までもち、千年の王城の地をはるかにしのぐスケールで「世界最大の大都市」を目指すものだった。その気宇壮大ぶりは、新時代の幕開けにふさわしく、現在の札幌の街の形成に受け継がれてきている。

しかし、義勇にとって、誕生したばかりのよちよち歩きの新政府は器があまりに小さすぎたようだ。札幌本府建設に着工したのは明治三年の暮れ。厳寒積雪期の工事は、彼が先頭に立って辛苦奮闘するものの、三カ月で年間予算を使い果たすという結果を招く。剛直な性格は政府上層部と対立し、半年足らずで東京に呼び戻されてしまった。

四年後の春、郷里佐賀の城下町を流れる嘉瀬川のほとりに、二つの首がさらされた。佐賀の乱の首謀者として処刑された江藤新平と義勇のものだった。札幌生みの親は、なぜ苛烈な死を選ばねばならなかったのか――。

文 花摘 泰克  
写真 飛田 富彦





## ブギウギ専務(STV, 日曜夜)

---

- 肖像権に触れるかもしれないので写真削除

# 札幌裏京都説

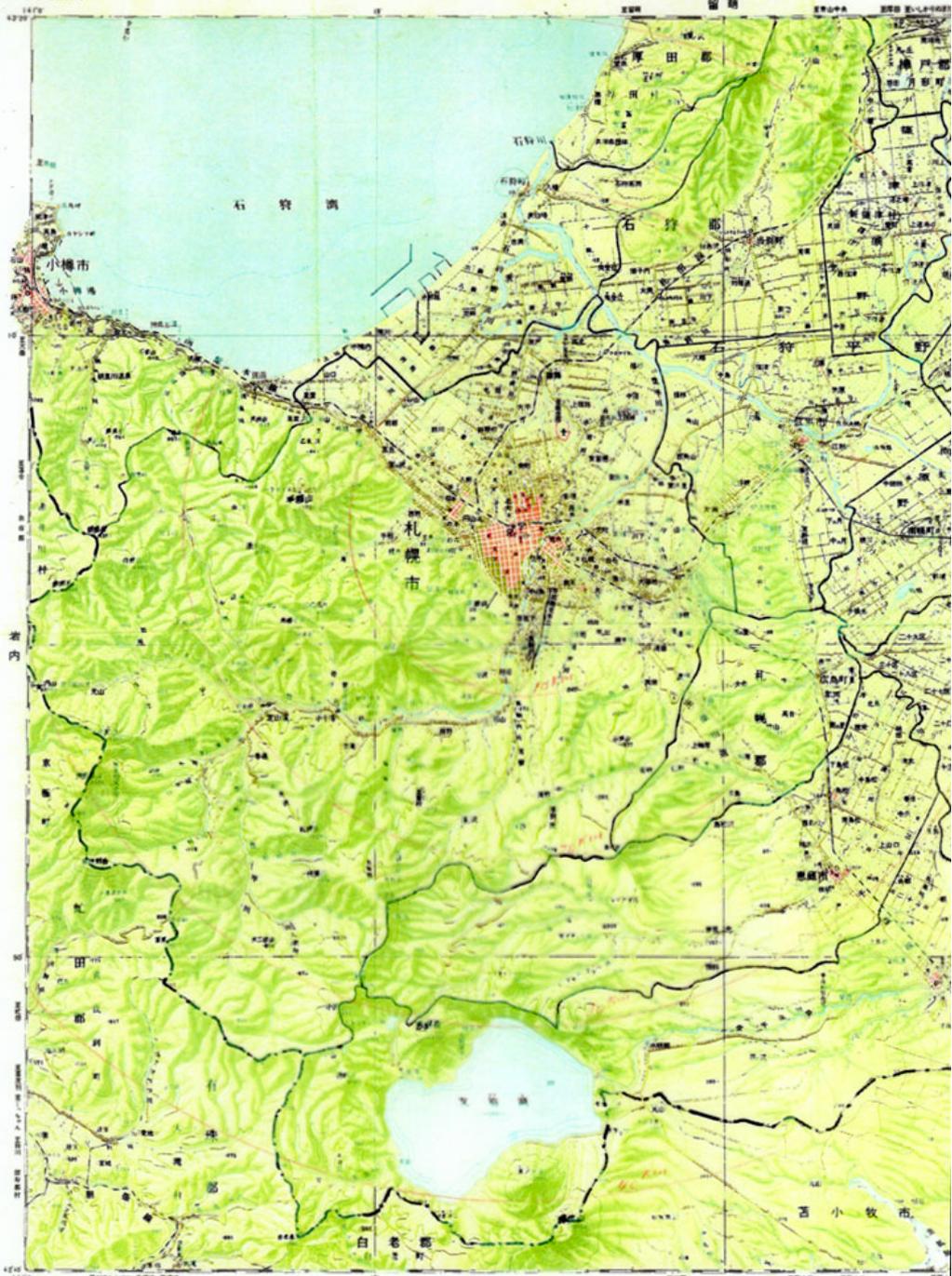
唱える人：荒巻義雄氏(作家)

## ■ 論拠

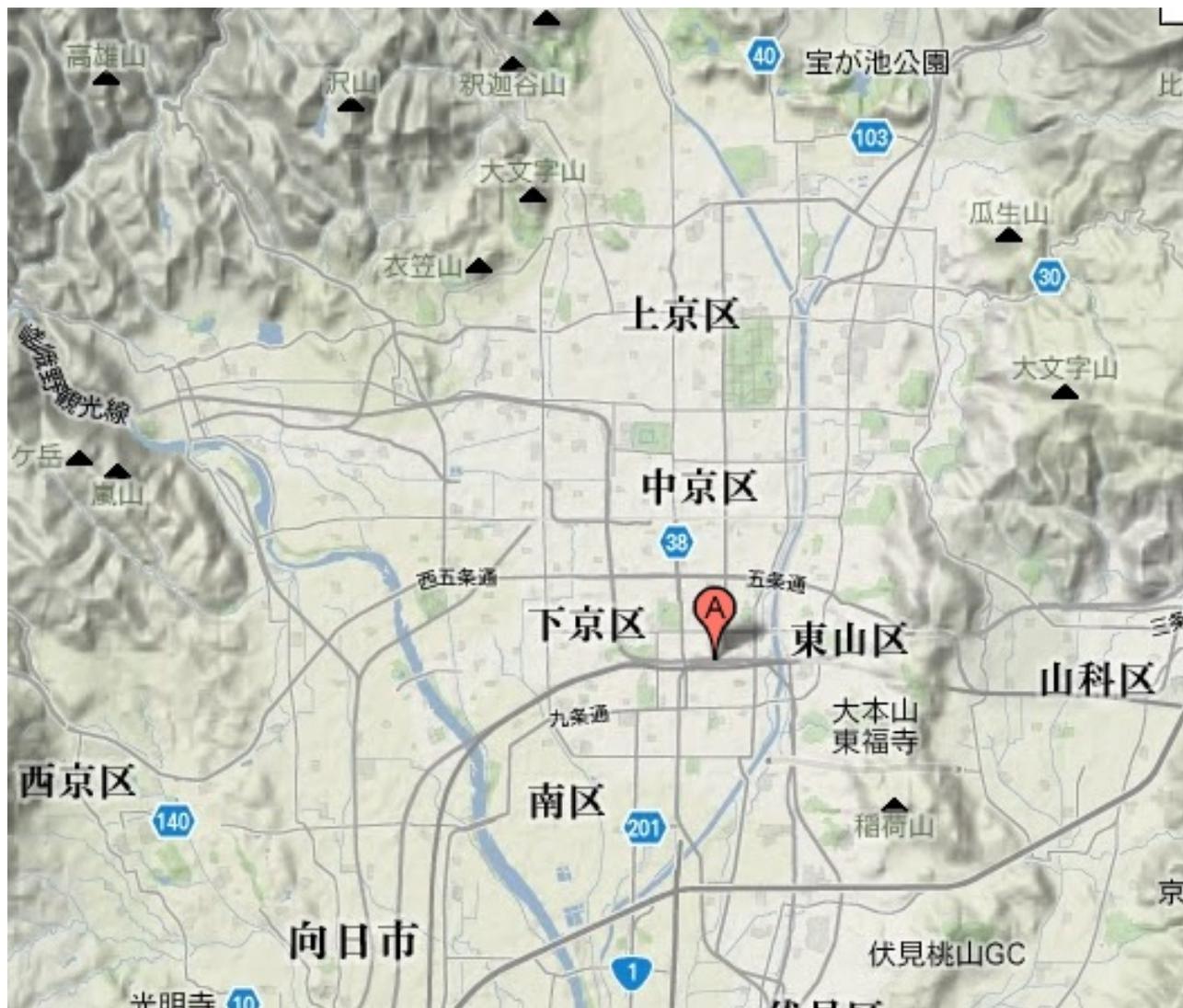
- 京都の鬼門(東北)に位置する比叡山に対し、札幌は裏鬼門(西南)に藻岩山(旧称円山)がある。
- 平安神宮が京都の東地区にあるのに対し、北海道神宮(旧札幌神社)は札幌の西地区にある。
- 賀茂川の流れが南方向なのに対し、豊平川の流れは北向きである。

## ■ 追加傍証

- 札幌の街割りは、京都と同じ「碁盤の目状」である
- 京都の高瀬川も、札幌の創成川も物流のための人工河川である



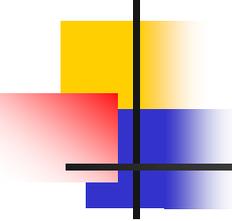
# 京都



# 風水説(四神思想)

中国の秦・漢時代から伝承されてきた術説。人間に及ぼす地気的作用を信じ、山岳、河川、平野などの地勢を観察し、さらに陰陽五行説や方位を考慮し、その最も吉相と判断される地に都、神社、墓などをつくり、建立する。

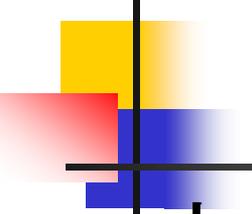
神	方位	色	地理的意味
青龍	東	青色	水の流れるところ
朱雀	南	赤色	平らに広がった地
白虎	西	白色	人の通うところ
玄武	北	黒	険しい山地



# アヘン戦争と札幌

---

- 1841 第1次アヘン戦争
  - 1842 中国は香港を英国に割譲
  - 1997 香港が中国に返還される
  
- 1856 第2次アヘン戦争
  - 1860 中国北東部がロシアに割譲
  - ロシアはウラジオストクの建設を開始



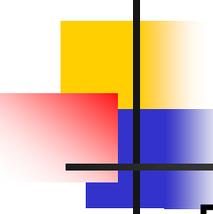
# ウラジオストク

---

- 人口: 587,000 (2004)
- 1860, ロシアの海軍基地がウラジオストクに建設される.
- 極東の経済、交通、軍事拠点
- 1903, シベリア鉄道の開通
- 「ウラジ」: ロシア語で「征服」
- 「ヴォストク」: ロシア語で「東」
- 「東を征服」?

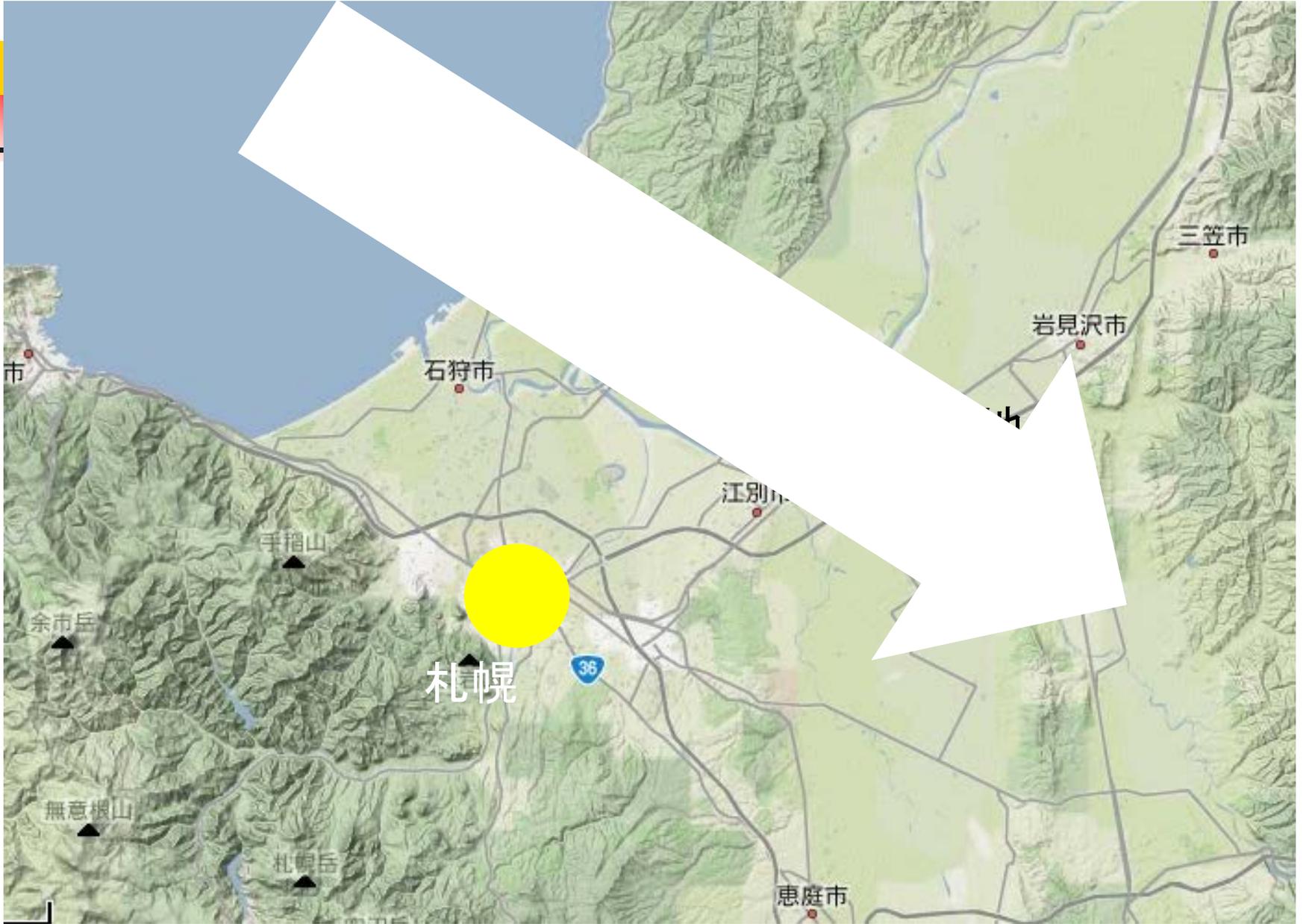




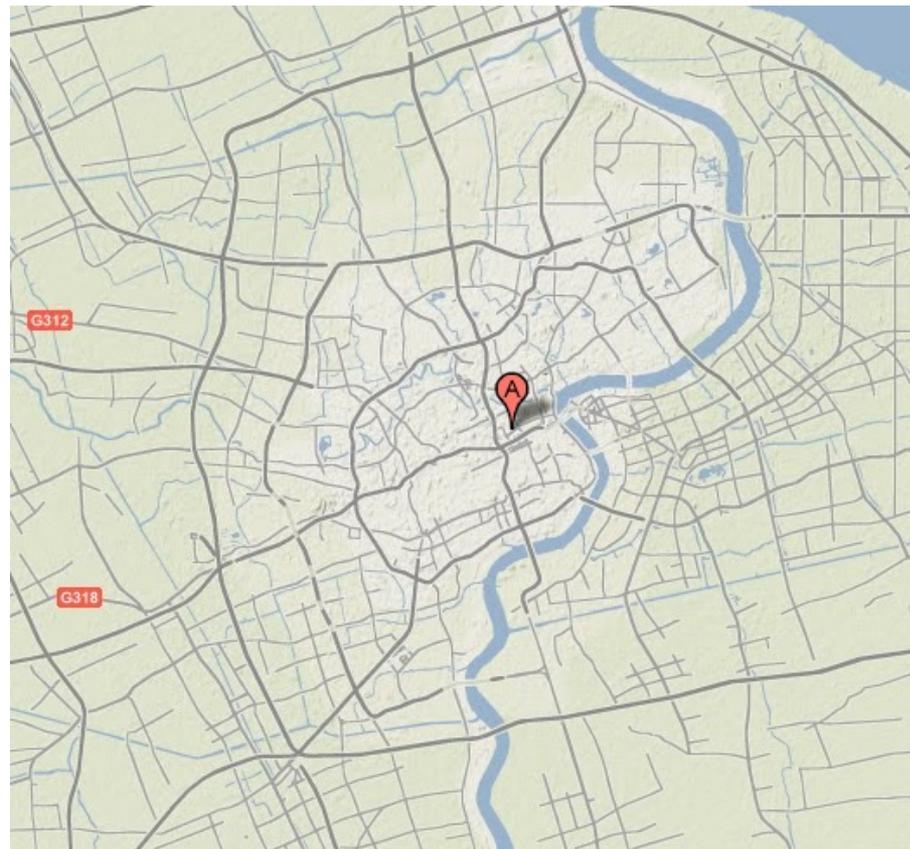
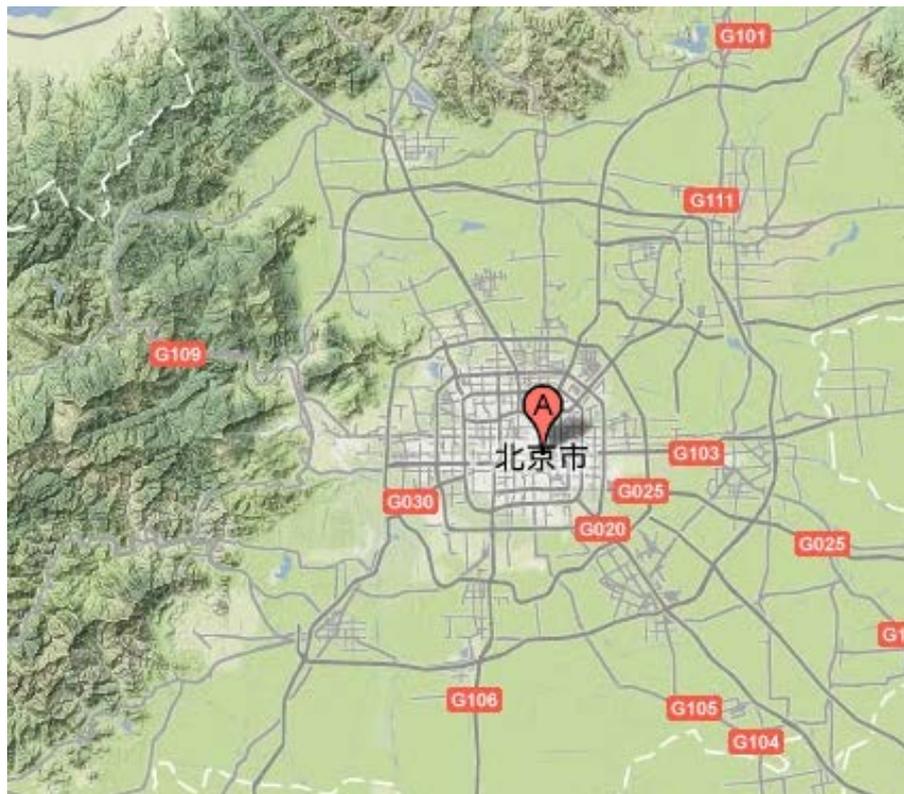


# 札幌の建設

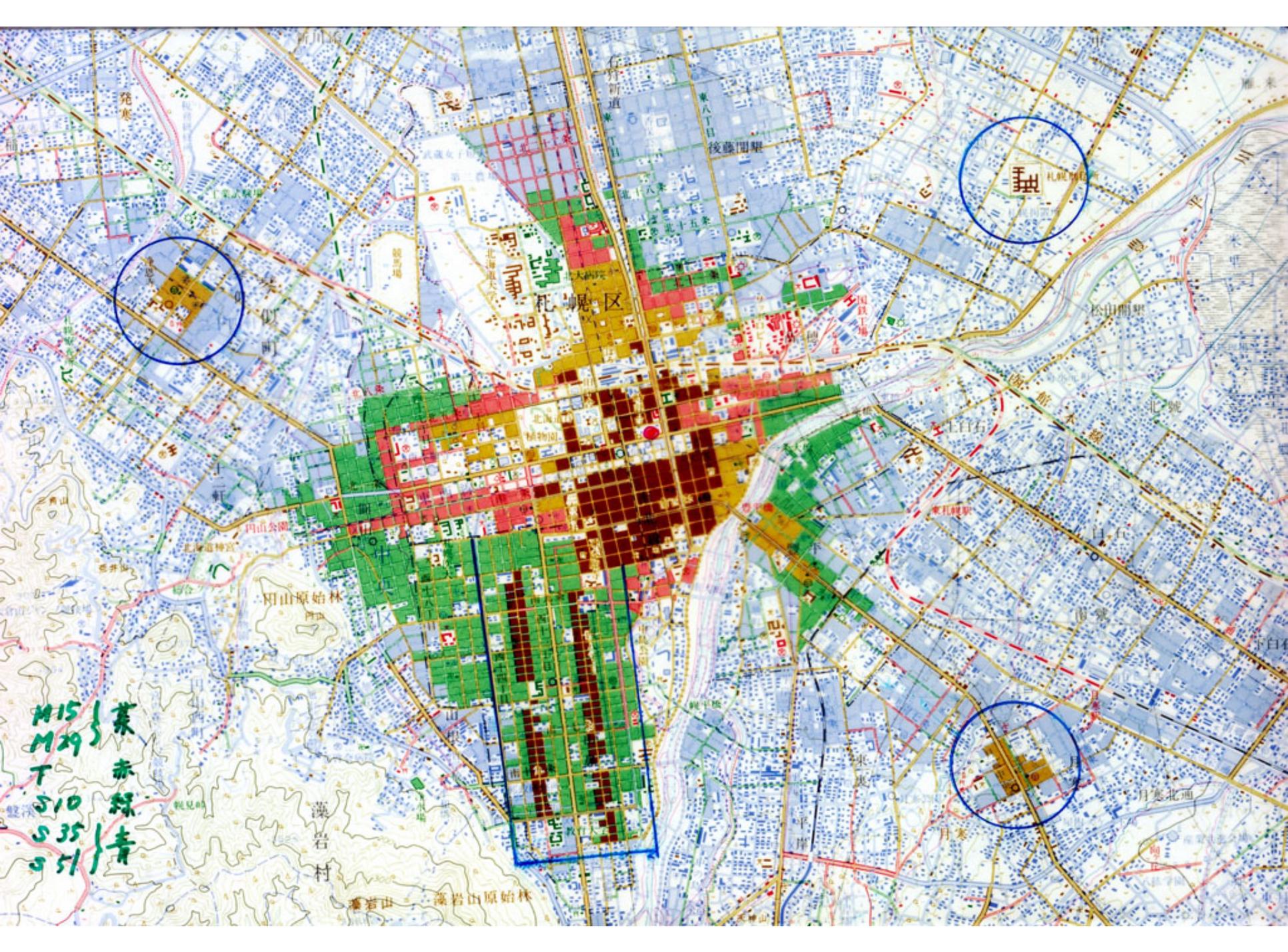
- 明治政府は島義勇に防衛拠点として札幌の建設を命じる
- 島義勇は当初、風水説に従って当別地区を候補地とした
- 松浦武四郎(北海道の命名者)の進言により、北西からの風雪を防ぎ、しかも都市防衛の可能な現在地を本府と定めた
- 札幌が京都に類似しながら南北が逆になっているのは、風水説によって選び、日当たり(南斜面の重視)より、水の利用を優先したことによる
  - 地形等の条件によって風水説が成立しない北陸地域などでは、日当たりより水の流れと、冬の気候を重視した



# 北京と上海



※縮尺は異なる



M15 } 赤線  
M29 }  
T }  
S10 }  
S35 }  
S51 } 青線



札幌区

松山開聖

月山原始林

藻岩山

藻岩山原始林

月寒北面